別紙様式5

令和5年度　　学 校 評 価 表　　（ 中間評価 ・ 最終評価 ）　　東広島市立龍王小学校

学校教育目標	夢と志をもち，未来を切り拓く子どもの育成	経営理念	学校内外の教育環境を最大限に活用し，次世代を担う人づくりを行うとともに，地域とともに発展する学校を創る。

評価計画							自己評価					学校関係者評価		改善方策
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値 10月	達成値 2月	達成度（2月）	評価（2月）	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
確かな学力の向上	1	自ら学ぶ子どもの育成	主体的に取り組む児童の育成	主体性の育成に係る実践研究	・児童アンケート ・教職員アンケート	肯定的評価：85%以上	肯定的評価：88%	肯定的評価：88%	103.5%	3	「解決したい課題に対してなぜだろう知りたいと思う」と回答した児童は，低学年が83%，高学年91%で，全体では88%であった。「授業後にもっと知りたい，調べてみたいことがある」と回答した児童は低学年80%，高学年86%で全体では82%であった。 全体的には，主体的に学習に取り組もうとする児童が多いが，高学年に比べて低学年の方が低い数字となっている。	B	課題に対して「解決したい」「継続して勉強したい」という児童の意欲を引き出すことが特に大切である。このような児童の課題への向き合い方を，具体的な行動や姿で図ることができるよう評価研究を進めていく必要がある。	学んだことを生活場面で活用するという視点をもって授業を行ったり，家庭での自主学習のやり方を指導したりする必要がある。また，本校は知的好奇心が高い児童が多く，今後もその実態にそった授業づくりを追究していく。
			基礎学力の定着	個別プリント・タブレットドリル学習の推進	・業者テスト国語（知識・理解） ・業者テスト算数（知識・理解）	85点以上の児童80%	国語80% 算数84%	国語81% 算数84%	国語101% 算数105%	3	夏休みに研修を行い，各学年の学力の状況と今後の指導の計画について話し合い，課題を明確にして基礎学力定着のための取組を実行することができた。学年別では，3・4年生の国語，4・5年生の算数について課題が見られた。5・6年生では国語，算数と共に前期に比べ数値が上昇し，成果が見られた。	A	学力向上に向けた取組が充実していることは理解できるが，高水準を維持していくために児童に無理をさせないように留意してほしい。また，定着率の低い児童への個別の指導を可能な範囲で進めてほしい。	昨年度まで朝に行っていたドリルタイムを昼に移行し，担任外の教師を一人配置し，継続して確実に実施できたことや，朝タイムを読書や漢字テストにあてたことが成果につながっているため，来年度も本形態を継続する。学力テストの結果で明確になった課題については，次年度にも情報を共有し，継続的に取り組む必要がある。
豊かな心の育成	2	思いやりのある子どもの育成	あいさつの定着	児童会，PTA，地域との連携・協力	・児童アンケート ・保護者アンケート	肯定的評価：80%以上	児童86% 保護者57%	児童88% 保護者59%	児童110% 保護者74%	2	学校生活アンケート「気持ちの良いあいさつができていますか。」の項目において，88%の児童が肯定的な評価をした。保護者アンケート「本校の児童は，よく挨拶をする」の項目において，59%の保護者が肯定的な評価をした。どちらも前期から2ポイント数値が上がった。地域の方や保護者に協力していただいた「R.G.P(龍王グリーティングプロジェクト)」や年間を通して行った校内挨拶運動において，児童の挨拶に対する意識や行動が高まっているように感じる。しかし，児童と保護者との挨拶に対する評価に大きな差がある。校外での挨拶に関しては，地域の関係の希薄さや児童と保護者との挨拶に対する捉え方の違いから，数値として測り取る難しさがあるように思う。	B	学校の中と外で児童の挨拶に違いがあるようだが，学校で児童に会うと元気よく挨拶してくれているイメージが強い。まずは，児童自身に「自分達は気持ちのよい挨拶ができる」という自信をもたせることから取組を進めていく方向でよいのではないか。	来年度は委員会の一つとして，「挨拶委員会」を新たに発足させる。今年度行った「R.G.P(龍王グリーティングプロジェクト)」や普段の挨拶運動をより効果的なものとして改善していく。 挨拶に対する捉え方の差がなくなるよう，目指す挨拶の姿の共有や地域・保護者からの意見の吸い上げをこまめに行い，児童への指導を行っていく。
			支持的風土の醸成	・異年齢集団活動の推進 ・児童会活動の充実	・保護者アンケート ・児童アンケート	肯定的評価：95%以上	保護者96% 児童94%	保護者96% 児童95%	保護者101% 児童100%	4	学校生活アンケート「友達の気持ちを考えて行動していますか。」の項目において，95%の児童が肯定的な評価をした。保護者アンケート「思いやりのある優しい心が育っている」の項目において，96%の保護者が肯定的な評価をした。どちらも目標値を上回った。縦割り班掃除や縦割り班遊び等を行う中で，上級生が下級生の手本となる関係性が築けたことが結果につながったと考える。また，普段の学校生活においても前期よりも後期が児童間のトラブルが減り，同学年同士の関係も高まっているように感じる。	A	大変素晴らしい成果が出ている。今後も異学年の関係を大切にしてよりよい関係構築を図ってほしい。「思いやりのある優しい心が育っている」というアンケート項目に対して否定的な回答をした保護者の状況が心配である。家庭環境への個別の対応も必要である。	次年度も，縦割り班編成をし，掃除活動や縦割り班遊びを中心に，支持的風土のさらなる醸成を目指す。 児童が主体となって企画・運営できる児童会行事を実施し，児童同士の関わり合う機会を設定する。
健やかな身体の育成	3	自ら安全や体力向上を意識して生活できる子どもの育成	食育の充実	食育指導の充実	・残菜率	4%台	平均：5.5%	平均：5.6%	71.4%	2	完食キャンペーン（3回実施）期間中は，残食量が3%台まで低下していたため，継続した取組の必要性を感じた。自分の適量を見つけることについて声掛けを継続したことも残食力減少につながっている。 保健だよりや掲示を活用し，学校での取組を保護者と共有した。	B	残食を減らす取組は，児童の体も心も健康にさせることに繋がる。児童が自分の食の適量に気付き，調整しながら食べる習慣を身に付けさせたい。また，家庭での取組が重要なため家庭と連携してもらいたい。	引き続き完食キャンペーンを実施する。 学校での取組を保護者に積極的に広報し，家庭と課題を共有した上で連携の上取組を推進する。
			体力の向上	・外遊びの励行 ・固定遊具等を活用した体育授業の工夫 ・家庭でも行える運動の推進と充実	・新体力テスト課題種目（50M走，握力）結果 ・児童アンケート	・前年度値以上 ・肯定的評価90%以上	男子：27:% 女子：37% 肯定的評価：88%	肯定的評価：91.2%	体力32% 運動興味101%	3	ロング昼休憩の他，「ドッジボール大会」や「持久走記録測定会」，「龍王なわとび100万回チャレンジ」などを実施することで，体育科の授業以外にも，休憩時間や放課後に友達を誘って，外遊びを楽しむ様子が見られた。また，「竹馬」「一輪車」「人口芝生広場」「縄跳びジャンピングボード」を新設したことも外遊びが広がった要因と考える。	B	児童数の増加や仮設校舎建築により児童の運動できるスペースが減少することが危惧される。様々な遊びを工夫して取り入れ，運動習慣を身に付けさせてほしい。また，体力向上の目標をもって取り組むことや個人カードを記録することによって自らの成長を実感させてほしい。	学級や学年など，学校全体で取り組めるような，運動の場を仕組む。 外遊びを充実させるために，簡単にできる遊びの紹介の機会を設けることで，児童の遊びの選択肢を増やす。
働き方改革の推進	4	業務改善の推進	児童と向き合う時間の確保	・学校行事等の精選 ・学校支援者の積極的導入 ・保護者・地域・学校の協働	・教職員アンケート	肯定的評価：80%以上	82.6%	91.1%	114%	3	主任層を中心にした一部の人間に負担が偏ることを改善するために，教務主任が実施する学年主任会を，副主任も参加する形態で行った。これにより，ネクスト主任層の参画意識や，全教職員の学年業務及び各分掌業務への協働意識向上が窺える。ストレスチェックの結果からも同僚の支援を受けたと実感している教職員の割合は相対的に高い。（9.8P）反面で，業務過多や多忙を感じている教職員は未だ多い現状がある。	A	在校時間を減らすだけでは業務改善にならない。先生方の尽力には敬意を表すが，多忙感を持っている教員が多いことが心配である。日々の業務改善について教職員の提案を取り入れたり面談等で業務改善の意識について問うたりと一人一人の教員の意識向上が重要である。教員という職が子供の夢になるよう業務改善を進めてほしい。	(1)業務を一部の人間に集中させず，教職員個々の専門性がより一層発揮できるための校務分掌及び組織編制の見直しを図る。 (2)業務(行事・会議・連携・資料作成・研修等）目的の一層の明確化と行事及び教育活動の精選を図る。 (3)人材育成を進める。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4…目標を上回って達成　　3…目標どおりに達成
2…目標をやや下回って達成　　1…目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価
A…とても適切である　　B…概ね適切である
C…あまり適切でない　　D…全く適切でない
（N…判定できない）